

保護者の皆さまへ

令和3年11月18日
(2021年)

千里みらい夢学園
吹田市立桃山台小学校
校長 小早川 靖樹

令和3年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和3年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語と算数に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細やかな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1 教科に関する調査の分析

●国語《概要》

概要 ・平均正答率は、全体として全国値を上回る結果であった。

- ・記述式の問題では、全国値を上回る良好な結果であった。
- ・読む力を問う問題では全国値を大きく上回るものの、正答率は低く課題が残る結果であった。

【各領域の成果と課題】

○話すこと・聞く

- ・目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える問題（選択式）では、全国値を上回る正答率であった。
- ・資料を用いた目的を理解する問題（選択式）では、全国値を上回る正答率だった。
- ・目的や意図に応じ、資料を使って話す問題（選択式）では、全国値を上回る正答率であった。

○書くこと

- ・自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える問題（選択式）では、全国値を上回る結果であった。
- ・目的や意図に応じて、理由を明確にしながらか自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題（記述式）では、全国値を上回る結果であった。

○読むこと

- ・文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する問題（選択式）では、全国値を上回る結果であった。
- ・目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける問題（記述式）では、全国値を大

きく上回るものの正答率は低く、課題が残る結果であった。

- ・目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する問題（記述式）でも、全国値を大きく上回るものの正答率は低く、課題の残る結果であった。
- 言葉の特徴や使い方に関する事項
- ・思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使う問題（選択式）では、全国値を上回る結果であった。
- ・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題（短答式）では、全国値を上回る結果となった問題と、全国値をやや上回る結果となった問題があった。
- ・文の中における主語と述語との関係を捉える問題（選択式）では、全国値を上回る結果であった。
- ・文の中における修飾と被修飾との関係を捉える問題（選択式）では、全国値を上回るものの正答率は低く、課題の残る結果であった。

●国語科における成果と今後の改善点について

資料文の内容を正しく読み取り回答する問題、特に記述式の問題の正答率は全国値を大きく上回っており、説明文や物語文の内容を記述に即して正確に読み取り、自分の考えを表現する活動や、調べたことを論文形式にまとめる活動に取り組んでいる成果が見られた。

しかし一方で、正答率は低く、その原因として、問いで与えられた条件の内の一部しか満たさない回答が目立つ。目的に応じて自分の考えをまとめたり表現したりする力が育つよう、多くの情報の中から必要な情報を選び、自分の考えをまとめる活動を今後も取り入れていく。

●算数《概要》

概要 ・平均正答率は、全国値を上回る結果であった。

- ・図形の問題では、全国値を上回る良好な結果であった。
- ・記述式の問題では、全国値を上回る良好な結果であった。

【各領域の成果と課題】

○「数と計算」

- ・示された除法の結果について、日常生活の場面に即して判断することができるかを問う問題（短答式）では、正答率も高く、全国値を上回る結果であった。
- ・商が1より小さくなる等分除（整数）÷（整数）の場面で、場面から数量の関係を捉えて除法の式に表し計算をすることができるかを問う問題（短答式）では、全国値を上回ったが、正答率は低く、課題の残る結果だった。
- ・小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述することができるかを問う問題（記述式）では、全国値を大きく上回ったが正答率は低い結果だった。

○「図形」

- ・三角形の面積の求め方について理解しているかを問う問題（短答式）では、全国値を大きく上回る結果だった。
- ・複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や量の加法性を基に捉え、比べることができるかを問う問題（選択式）では、全国値を上回る結果だった。
- ・複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを記述できるかを問う問題（記述式）では、全国値を大きく上回ったが正答率はやや低い結果だった。

- 「測定」
 - ・二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述できるかを問う問題（記述式）では、全国値を上回る結果であった。
 - ・条件に合う時刻を求めることができるかを問う問題（短答式）では、正答率も高く、全国値を上回る結果であった。
- 「変化と関係」
 - ・速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察することができるかを問う問題（短答式）では、全国値を上回り、正答率も高かった。
 - ・速さを求める除法の式と商の意味を理解しているかを問う問題（選択式）では、全国値を上回ったが、正答率はやや低く、課題の残る結果だった。
 - ・速さと道のりを基に、時間を求める式に表すことができるかを問う問題（短答式）では、全国値を上回る結果だった。
- 「データの活用」
 - ・棒グラフから数量を読み取ることができるかを問う問題（選択式）では、正答率も高く、全国値をやや上回る結果だった。
 - ・棒グラフから項目間の関係を読み取ることができるかを問う問題（選択式）では、正答率も高く、全国値を上回る結果だった。
 - ・データを二次元の表に分類整理することができるかを問う問題（選択式）では、全国値を上回る結果だった。
 - ・帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴を持った項目とその割合を記述できるかを問う問題（記述式）では、全国値を大きく上回ったが、正答率もやや低い結果であった。
 - ・集団の特徴を捉えるために、どのようなデータを集めるべきかを判断することができるかを問う問題（選択式）では、全国値を大きく上回る結果だった。

●算数科における成果と今後の改善点

全体的に正答率が全国値を上回り、特に図形の問題、記述式の問題の正答率が高い結果となった。各単元の大事なところをまとめた学習プリントで確認したり、授業で分かったことを自分の言葉でまとめたりする活動に継続して取り組んできたこと、図形については問題解決型学習も取り入れてきたことによる成果と思われる。

しかし、数学的な思考を要する問題の正答率がやや低い傾向があり、単に解き方を覚えるのではなく、なぜそうなるのかを理解し、解き方を考え立式する力を育てる授業に取り組む必要がある。

2 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

【学習環境・生活環境について】

- ・朝食を毎日食べる児童の割合は高いが、全国値とほぼ同じ割合で食べていない児童もいる。
 - ・毎日同じくらいの時刻に寝、おなじくらいの時刻に起きると答えた児童は、全国値より少ない。
- ・普段一日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（パソコン、携帯、スマホを使ったゲーム含む）をするかという問いに、1時間～2時間と答えた児童が最も多く、1時間以下、全くしないと答えた児童が全国値より多い。一方3時間以上、4時間以上と答えた児童は全国値を下回ってはいるが一定数はいるため、課題がみられる。
- ・自分には良いところがある、と答えた児童は全国値を下回っている。また将来の夢や目標を持っていると回答した児童が全国値を下回っている。一方人の役に立つ人間になりたいと回答した児童の割合は、全国値を上回っている。

- ・難しいことでも失敗を恐れず挑戦しているかの問いに対して肯定的な回答をした児童は全国値を下回っている。
- ・ほとんどの児童がいじめはどんなことがあってもいけないことだと考えている。
- ・授業時間以外に普段、どのくらい勉強しているかの問いに対し、2時間以上勉強をしている児童が全国値を大きく上回り5割以上いる一方、全くしない児童も全国値を上回り、二極化が見られた。
- ・塾や家庭教師の先生に教わっている児童の割合は全国値を大きく上回っている。
- ・読書の時間、家にある本の冊数ともに、全国値を上回っている。
- ・地域行事への参加率は全国値を下回る結果だった。

【教科・学習について】

- ・5年生までに受けた授業は、自分に合った教え方、教材、学習時間などになっていたかの問いに対し肯定的な回答をした児童は全国値を下回っている。
- ・話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることが出来ていると回答した児童は約8割で全国値とほぼ同じだった。また学級会で話し合い、互いの意見の良さを生かして解決方法を決めているかや、道徳の授業で自分の考えを深めたり話し合ったりする活動に取り組んでいるかとの問いに肯定的に回答した児童の割合も高かった。
- ・国語、算数とも勉強は好き、よく分かるという回答している児童が多い一方、授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないかと考える児童や将来、社会に出た時に役立つと思う児童の割合は全国値を下回っている。

3 今後の取り組み

千里みらい夢学園では、令和2年度より子どもたちの「学びに向かう Style」を育成する「知りたい！話したい！伝えたい！」をテーマに、研究を進めています。今回の調査結果から、子どもたちがただ理解するだけでなく、授業の中で自分の考えを持ち、気持ちや意見を相手に伝えたり、友だちの話や思いを聞いたりする活動を大切にしたい授業づくりに対して一定の成果が得られたと考えられます。しかし、真面目に努力している児童が多い反面、自己肯定感の低さや、思いきって挑戦したりすることが苦手な児童が多いこと、また学習の理解度が高い反面学習内容と実生活との関連付けが不十分であるなどの課題も見られました。

苦手なことやつまずきを乗り越え、「自ら学ぶ」「積極的に子ども同士がつながる」「最後までやりぬく」子どもたちを育てるために、課題を試行錯誤し解決するような、「知りたい！話したい！伝えたい！」授業の研究に引き続き取り組むとともに、児童一人ひとりにあったきめ細かな指導の工夫改善をより一層進めて参ります。

また授業だけでなく、学校生活の様々な場面で、児童が自分たちで考え、話し合い、主体的に取り組む場面を設定し、友達とつながりながら、失敗を恐れず最後までやりぬく子どもたちを育ててまいります。

今後とも、家庭・地域と連携して教職員一同努力して参りますので、ご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

